



アキョウ（阿膠）



基原動物：口バ *Equus asinus* Linn.（ウマ科 Equidae）の毛を去った皮、骨、けん又はじん帯を水で加熱抽出し、脂肪を去り、濃縮乾燥したもの

使用部位：膠

本品は、口バ皮から作られる膠（にかわ）で、成分はコラーゲンやタンパク質及びアミノ酸の混合物です。

神農本草経の上品に収載されている生薬で、古くから使われる薬です。補血^{※1}や止血^{※1}作用があるといわれ、一般用漢方製剤294処方では、芎帰膠艾湯（きゅうききょうがいとう）や温経湯（うんけいとう）など7処方に配合されています。

※1 難波恒雄．原色和漢薬図鑑（下）．大阪，株式会社保育社．1980，521p.



アマチャ（甘茶）



本品はアマチャ *Hydrangea macrophylla* Seringe var. *thunbergii* Makino (Saxifragaceae) の葉を、発酵・乾燥させたものです。

生薬アマチャ（甘茶）は、葉に含まれるフィロズルチン配糖体が加水分解されて生成されるフィロズルチンなどの成分により、強い甘味を呈します。これらは抗酸化*1や抗菌作用*1があるといわれています。

仏教行事「灌仏会（かんぶつえ）」では、釈迦の誕生日に仏像に甘茶をかける風習があり、甘茶はその際に用いられます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



アロエ（ロカイ）



本品は主として*Aloe ferox* Miller、*Aloe africana* Miller、*Aloe spicata* Baker（Liliaceae）の葉から得た液汁を乾燥させたものです。

生薬アロエ（ロカイ）は、成分としてバルバロインなどのアントロン配糖体を含み、緩下作用*1があるといわれています。

キダチアロエは古くから民間薬としても利用され、やけどや切り傷に葉肉を直接貼るなどの外用*2にも使われてきました。現在では健康食品や化粧品にも広く利用されており、家庭でも栽培される身近な植物です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p

※2 岡田稔, 布目慎男, 寺林進, 三木栄二編集. 原色牧野和漢薬草大図鑑. 三橋博監修. 東京, 株式会社北隆館. 1988, 782p.



■ イッカク（一角）



本品は北極海に生息するイッカク科の哺乳類、イッカク *Monodon monoceros* L.の牙です。

生薬イッカク（一角）は、雄のイッカクの上顎にある門歯が螺旋状に伸長した牙を乾燥・加工したものです。解熱*1 や鎮静作用*1があるといわれています。

日本へはオランダ医学とともに江戸時代に渡来しました。

古典的な処方「紫雪（しせつ）」にも配合されたといわれます。

ワシントン条約で国際取引が制限されていてほとんど使用されません。

※1 赤松金芳，新訂和漢薬，医歯薬出版株式会社，
1970，1132p



■ ウコン（鬱金）



本品はウコン *Curcuma longa* Linné (Zingiberaceae) の根茎です。

生薬ウコン（鬱金）は、成分としてクルクミンなどを含み、利胆*1、肝保護作用*1があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、中黄膏（ちゅうおうこう）に配合されており、皮膚の炎症や化膿性疾患などに対して外用薬として用いられます。

ウコンは黄色色素を含むことから、黄色の染料としても利用されています。健康食品にはキョウオウ（ノリウコン）が沖縄県などで生産され、使われていますが、日本では薬用としては使用されません*2。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p

※2 根本幸夫. 漢方294処方 生薬解説 その基礎から運用まで. 根本幸夫監修, 株式会社じほう, 2016 348p



■ ウバイ（烏梅）



本品はウメ *Prunus mume* Siebold et Zuccarini (Rosaceae) の未熟果実を燻製し乾燥したものです。

生薬ウバイ（烏梅）は、成分としてコハク酸やクエン酸などを含み、収斂*1、止瀉*1、鎮咳作用*1があるといわれています。

ウバイは独特の香りと酸味を持ち、古くから民間薬としても利用されてきました。特に消化器系の不調や咳止めに用いられることが多く、薬膳茶にも使われることがあります。また、古来より紅花染めの媒染剤としても活用されてきました。

※1原色和漢薬図鑑 上 難波恒雄、原色和漢薬図鑑（上）、大阪、株式会社保育社、1980、517p.



■ オウゴン（黄芩）



本品はコガネバナ *Scutellaria baicalensis* Georgi (Labiales)の周皮を除いた根です。

生薬オウゴン(黄芩)は、成分としてバイカリンなどを含み、緩下^{※1}、利尿作用^{※1}があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、黄連解毒湯(おうれんげどくとう)、小柴胡湯(しょうさいこうとう)など53処方に配合されています。花は紫色ですが、薬用部位の根が黄金色なので植物名がコガネバナ、生薬名がオウゴン(黄芩)とそれぞれ呼ばれます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



オウバク（黄柏）



本品はキハダ *Phellodendron amurense* Ruprecht 又は *Phellodendron chinense* Schneider (Rutaceae) の周皮を除いた樹皮です。

生薬オウバク(黄柏)は、成分にベルベリンなどを含み、健胃※¹、消炎※¹作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、黄連解毒湯(おうれんげどくとう)、清暑益気湯(せいしょえっきとう)など19処方に配合されています。

昔から旅に出るときは必ず持参し、おなかの不調には内服で、捻挫には外用で使われた生薬です。

※¹原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



■ オウヒ（桜皮）



本品はヤマザクラ *Prunus jamasakura* Siebold ex Koidzumi
またはカスミザクラ *Prunus verecunda* Koehne (Rosaceae) の樹皮です。

生薬オウヒ（桜皮）は、成分としてサクラネチンを含み、鎮咳および
去痰作用*1があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、
十味敗毒湯（じゅうみはいどくとう）や治打撲一方（ぢだぼくいっぽう）の
2処方に配合されています。

オウヒは日本独自の民間薬として古くから用いられており、咳止め*2や
皮膚疾患*2などに利用されてきました。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語
源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂,
北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会
社. 2017, 361p

※2 根本幸夫. 漢方294処方 生薬解説 その基礎から運
用まで. 根本幸夫監修, 株式会社じほう, 2016 348p



カッコウ（藿香・広藿香）



本品は カッコウ *Pogostemon cablin* Benthham (Lamiaceae) の地上部です。

生薬カッコウ（藿香）は、成分として オイゲノールやパチュリアルコールなどの揮発性成分を含み、解熱*1、鎮吐*1、健胃*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、藿香正気散（かっこうしょうきさん）など7処方に配合されています。

カッコウは東南アジアで広く栽培され、独特の甘く温かい香りを持つのが特徴です。乾燥葉から得られる「パチュリ油」は香水や線香の原料として古くから利用され、現在でもアロマセラピーで人気の高い香りのひとつです。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



カッコン（葛根）



本品はクズ *Pueraria lobata* Ohwi (Leguminosae) の周皮を除いた根です。
生薬カッコン(葛根)は、成分としてプエラリンなどを含み、鎮痙^{※1}、解熱^{※1}作用
があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、葛根湯(かっこんとう)や葛根湯加川芎辛夷
(かっこんとうかせんきゅうしんい)など14処方に配合されています。葛餅に
使われる葛粉は、クズの根からデンプンを抽出し精製したものです。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語
源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千
穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017,
361p.



カッセキ（滑石）



本品は鉱物で、主として含水ケイ酸アルミニウムおよび二酸化ケイ素からなります。味はないが、特異なおいがあります。白色～淡紅色の粉末成の結晶塊で砕くと簡単に微細な粉末になります。利尿^{※1}作用があるといわれ、一般用漢方製剤294処方では、猪苓湯(ちよれいとう)や防風通聖散(ぼうふうつうしょうさん)など5処方に配合されています。

鉱物学的な滑石(タルク)はケイ酸マグネシウムが主体で別の物です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



カンキョウ（乾姜）



本品は ショウガ *Zingiber officinale* Roscoe (Zingiberaceae) の根茎を、湯通し又は蒸したものです。

生薬カンキョウ（乾姜）は、成分として ショウガオール などを含み、解熱*1、鎮痛*1、鎮咳*1などの作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、大建中湯（だいけんちゅうとう）や小青竜湯（しょうせいりゅうとう）など31処方に配合されています。

カンキョウは、生のショウガ（生姜）を蒸して乾燥することで性質が変わり、より身体を温める作用が強くなるとされています。古くから料理や香辛料としても親しまれ、日本でも日常的に利用される身近な生薬です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



カンゾウ（甘草）



本品は ウラルカンゾウ *Glycyrrhiza uralensis* Fisch. またはカンゾウ *Glycyrrhiza glabra* Linné (Leguminosae) の根及びストロンです。

生薬カンゾウ（甘草）は、成分として グリチルリチン などを含み、鎮咳*1、去痰*1、消炎*1などの作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）や葛根湯（かっこんとう）など 212処方に配合されています。

漢方薬では他の生薬の効き目を調節する緩和薬として多く使われます。

古くから甘味料としても知られ、砂糖の数十倍の甘さを持つといわれています。味噌や醤油などの食品の味付けにも利用されます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



キキョウ（桔梗根）



本品は キキョウ *Platycodon grandiflorum* A. De Candolle (Campanulaceae) の根です。

生薬キキョウ（桔梗根）は、成分として プラチコジン などのサポニン類を含み、鎮咳*1、去痰*1などの作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、荊芥連翹湯（けいがいれんぎょうとう）や防風通聖散（ぼうふうつうしょうさん）など 31処方に配合されています。

キキョウは古くから観賞用としても親しまれ、秋の七草のひとつとして知られています。韓国では「トラジ」と呼ばれ、根を水に晒してアクを抜いたものを和え物やキムチとして食べる習慣もあります。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



キササゲ



本品は キササゲ *Catalpa ovata* G. Don又は *Catalpa bungei* G.A.Meyer (Bignoniaceae) の果実です。

生薬キササゲは、成分として カタルポシド などのイリドイドを含み、利尿*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方には配合されませんが民間薬として用いられてきました。

キササゲは初夏に淡黄色の花を咲かせ、細長いサヤ状の果実を秋から冬にかけてぶら下げます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



キョウニン（杏仁）



本品はホンアンズ *Prunus armeniaca* Linné、アンズ *Prunus armeniaca* Linné var. *ansu* Maximowicz 又は *Prunus sibirica* Linné (Rosaceae) の種子です。

生薬キョウニン(杏仁)は、成分としてアミグダリンなどを含み、鎮咳^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、麻杏甘石湯(まきょうかんせきとう)や神秘湯(しんぴとう)など18処方に配合されています。デザート
トの杏仁豆腐の香り付けにも使われます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



クコシ（枸杞子）



本品はクコ *Lycium chinense* Miller 又は *Lycium barbarum* Linné (Solanaceae) の果実です。

生薬クコシ(枸杞子)は、成分としてベタインなどを含み、強壮^{※1}、新陳代謝増強^{※1}作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、杞菊地黄丸(こぎくじおうがん)の1処方に配合されています。クコの果実はゴジベリーとも呼ばれ薬膳にもよく使われます。カロテンやビタミン B1,B2,Cを含む大変栄養価の高い食品でもあります。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ケイヒ（桂皮）



本品は カシアニッケイ *Cinnamomum cassia* Blume (Lauraceae) の樹皮です。

生薬ケイヒ（桂皮）は、成分として シンナムアルデヒド、オイゲノール などを含み、発汗*1、解熱*1、鎮痛*1などの作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、桂枝湯（けいしとう）や葛根湯（かっこんとう）など45処方に配合されています。

ケイヒは古くから香辛料として世界中で利用され、料理・菓子・飲料の香りづけとしても欠かせない存在です。甘く温かみのある香りが特徴で、日本でも「シナモン」として広く親しまれています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



ゲンノショウコ



本品はゲンノショウコ *Geranium thunbergii* Siebold et Zuccarini (Geraniaceae) の地上部です。

生薬ゲンノショウコは、成分としてゲラニインなどを含み、整腸^{※1}作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方には配合されていません。日本で昔から単味で民間薬として使われる生薬です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



コウカ（紅花）



本品はベニバナ *Carthamus tinctorius* Linné (Compositae)の管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧搾して板状としたものです。

生薬コウカ(紅花)は、成分としてカーサミンなどを含み、通経^{※1}、駆瘀血^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、治頭瘡一方(ちづそういっぽう)や通導散(つうどうさん)など11処方に配合されています。紅花茶として飲まれる他、古くから口紅や染料として用いられています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



コウボク（厚朴）



本品はホオノキ *Magnolia obovata* Thunberg (*Magnolia hypoleuca* Siebold et Zuccarini)、*Magnolia officinalis* Rehder et Wilson 又は *Magnolia officinalis* Rehder et Wilson var. *biloba* Rehder et Wilson (Magnoliaceae) の樹皮です。

生薬コウボク(厚朴)は、成分としてマグノロールなどを含み、鎮痛^{※1}、鎮痙^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、半夏厚朴湯(はんげこうぼくとう)など29処方に配合されています。

ホオノキは大きな葉をつけます。この大きな葉を使い味噌とネギなどの薬味を焼いて食べる朴葉焼き(ほおばやき)は飛騨地方の郷土料理です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ゴオウ（牛黄）



基原動物:ウシ *Bos taurus* Linn. var. *domesticus* Gmel. (ウシ科 Bovidae)

使用部位:結石

ウシの胆のう中に生じた結石です。結石をわずらったウシから採取されます。希少であるため大変高価な生薬です。主要な成分はビリルビンなどの胆汁色素やデオキシコール酸などの胆汁酸です。強心^{※1}、解熱^{※1}、鎮静^{※1}作用があるといわれ、動悸による不安感などを改善する目的で六神丸(ろくしんがん)、救命丸(きゅうめいがん)などに配合されています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ゴシュユ (呉茱萸)



本品は*Euodia officinalis* Dode (*Evodia officinalis* Dode), *Euodia bodinieri* Dode (*Evodia bodinieri* Dode) 又はゴシュユ *Euodia ruticarpa* Hooker filius et Thomson (*Evodia rutaecarpa* Benth) (Rutaceae) の果実です。

生薬ゴシュユ(呉茱萸)は、エボジアミンなどの成分を含み、鎮痛^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、温経湯(うんけいとう)、呉茱萸湯(ごしゅゆとう)など7処方に配合されています。

未熟な果実を乾燥したものを生薬として利用します。消化機能をつかさどる脾胃を温めて亢進する効果があり、冷えによる頭痛などに用いられます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



サイコ（柴胡）



本品はミシマサイコ *Bupleurum falcatum* Linné (Umbelliferae) の根です。
生薬サイコ(柴胡)は、成分としてサイコサポニンなどを含み、消炎^{※1}、解熱^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、小柴胡湯(しょうさいことう)、補中益気湯(ほちゅうえっきとう)など43処方に配合されています。かつてミシマサイコは静岡県三島産が良品とされました。今では絶滅危惧種に選定されており野生品採取は行われていません。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



サフラン



本品はサフラン *Crocus sativus* Linné (Iridaceae) の柱頭です。

生薬サフランは、成分としてクロシンなどを含み、鎮痛^{※1}、通経作用^{※1}があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方には配合されていません。

柱頭の基部(黄色い部分)や花粉の混入が少ない物が良品とされています。パエリアやサフランライスなどの料理の色付けや香り付けにも使われます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



サンシシ（山梔子）



本品はクチナシ *Gardenia jasminoides* Ellis (Rubiaceae) の偽果で、ときには湯通し又は蒸したものです。

生薬サンシシ（山梔子）は、成分としてゲニポシドなどを含み、利胆^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、黄連解毒湯（おうれんげどくとう）、加味逍遙散（かみしょうようさん）など22処方に配合されています。クチナシの果実は食品にも利用され、おせち料理の「栗きんとん」やダイコンの「沢庵漬け」などの黄色の色付けによく使われます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



サンショウ



本品はサンショウ *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. (Rutaceae) の成熟した果皮で、果皮から分離した種子をできるだけ除いたものです。

生薬サンショウ(山椒)は、成分としてサンショオールなどを含み、鎮痛^{※1}、抗菌^{※1}作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、大建中湯(だいけんちゅうとう)、当帰湯(とうきとう)など6処方に配合されています。

食材としてちりめん山椒などに利用する時は、香りの良い未熟な果実を利用します。

※1 原島広至, 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修, 東京, 丸善雄松堂株式会社, 2017, 361p.



サンシュユ（山茱萸）



本品はサンシュユ *Cornus officinalis* Siebold et Zuccarini (Cornaceae) の偽果の果肉です。

生薬サンシュユ(山茱萸)は成分としてロガニンなどを含み、滋養強壮^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、八味地黄丸(はちみじおうがん)など6処方に配合されています。

基原植物のサンシュユは春一番に黄色い花を咲かせ、夏は葉の緑が美しく、秋には赤い実をつけることから庭木としてよく植えられている植物です。晩秋に紅熟する花托(偽果)は酸味が強く渋味もあるので鳥にも食べられず冬まで見ることができます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



サンナ（山奈）



本品はバンウコン*Kaempferia galanga* L. (Zingiberaceae) の根茎です。

生薬サンナ（山奈）は、芳香性健胃*1などの作用があるといわれています。
一般用漢方製剤294処方では、使われません。

現在では薬用より薫香料として線香などによく使われます。

※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑（上）. 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.



サンヤク（山薬）



本品はヤマノイモ *Dioscorea japonica* Thunberg 又はナガイモ *Dioscorea batatas* Decaisne (Dioscoreaceae) の周皮を除いた根茎(担根体)です。

生薬サンヤク(山薬)は、成分としてジオスゲニンなどを含み、滋養強壮^{※1}などの作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、八味地黄丸(はちみじおうがん)、牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)など8処方に配合されています。

基原植物のヤマノイモやナガイモは、山芋短冊やとろろご飯でお馴染みの食材です。食べる部分を生薬としても使います。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



シコン（紫根）



本品はムラサキ *Lithospermum erythrorhizon* Siebold et Zuccarini (Boraginaceae)の根です。

生薬シコン(紫根)は、成分としてシコニンなどを含み、創傷治癒促進^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、紫雲膏(しうんこう)、紫根牡蛎湯(しこんぼれいとう)の2処方に配合されています。

ムラサキは非常に栽培が難しい植物で、根から抽出される紫色染料はとても希少でした。推古天皇の時代に制定された冠位十二階では、紫色が最高位の色と定められました。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



シャクヤク（芍薬）



本品はシャクヤク *Paeonia lactiflora* Pallas (Paeoniaceae)の根です。
生薬シャクヤク(芍薬)は、成分としてペオニフロリンなどを含み、鎮痙^{※1}、鎮痛^{※1}作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、加味逍遙散(かみしょうようさん)や当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)など102処方に配合されています。また筋肉の緊張を緩める作用があり、こむら返りの症状を改善する芍薬甘草湯(しゃくやくかんぞうとう)にも配合されています。「立てば芍薬」は女性の美しさを形容する言葉ですが、気が立つ(イライラする)時に用いられる生薬です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ショウキョウ（生姜・乾生姜）



本品は ショウガ *Zingiber officinale* Roscoe (Zingiberaceae) の根茎です。

生薬ショウキョウ（生姜）は、成分として ジンゲロールなどを含み、健胃*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、六君子湯（りっくんしとう）、胃苓湯（いれいとう）など114処方に配合されています。

ショウガは古くから香辛料・薬味として広く利用されており、体を温める働きを持つことから日常の食材としても重宝されています。蒸して乾燥したものは生薬カンキョウ（乾姜）として扱われ、用途に応じて使い分けられています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



シンイ（辛夷）



本品は *Magnolia biondii* Pampanini、ハクモクレン *Magnolia heptapeta* Dandy (*Magnolia denudata* Desrousseaux)、*Magnolia sprengeri* Pampanini、タムシバ *Magnolia salicifolia* Maximowicz 又は コブシ *Magnolia kobus* De Candolle (Magnoliaceae) のつぼみです。

生薬シンイ(辛夷)は、成分としてコクラウリンなどを含み、鎮静^{※1}、鎮痛^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、辛夷清肺湯(しんいせいはいとう)や葛根湯加川芎辛夷(かっこんとうかせんきゅうしんい)など4処方に配合されています。早春に花を咲かせるコブシの花のつぼみはさわやかな香りを持ち生薬に使います。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ジンコウ（沈香）



本品は*Aquilaria agallocha* Roxburgh, *Aquilaria crassna* Pierre ex Lecomte, *Aquilaria malaccensis* Lamarck, *Aquilaria sinensis* Gilg 又は *Aquilaria filaria* Merrill (Thymelaeaceae) の材, 特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着したものです。

生薬ジンコウ（沈香）は、ベンジルアセトンなどの精油成分を含み、鎮静*1、解毒*1、健胃*1などの作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、丁香柿蒂湯（ちょうこうしていとう）、喘四君子湯（ぜんしくんしとう）の2処方に配合されています。

ジンコウは高級なお香に使われることが多く、ベトナムやタイで生産されます。基原植物の*Aquilaria*属はワシントン条約で国際取引が制限されています。

※1難波恒雄. 原色和漢薬図鑑（下）. 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.



センソウ（茜草）



本品は アカネ *Rubia cordifolia* L. var. *mungista* Miq. (Rubiaceae) の根です。

生薬センソウ（茜草）は、止血*1、通経*1などの作用があるといわれています。
一般用漢方製剤294処方には配合されていません。

アカネは古くから衣服の染色にも使われる植物です。

『神農本草経』『本草綱目』などの本草書に記載があり、また『万葉集』にも登場するなど、文化的にも重要な植物です。

※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑（上）. 大阪, 株式会社
保育社. 1980, 517p.



セッコウ（石膏）



使用部位: 鉱物

天然の含水硫酸カルシウムで、組成はほぼ $\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ です。セッコウを加熱し脱水した焼セッコウ ($\text{CaSO}_4 \cdot 1/2\text{H}_2\text{O}$) は外用に使用されます。かつては整形外科の患部の固定に使われるギプスの材料に使われていました。解熱^{※1}、鎮静^{※1}作用があるといわれ、一般用漢方製剤294処方では、麻杏甘石湯（まきょうかんせきとう）や消風散（しょうふうさん）など24処方に配合されています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



センキュウ（川芎）



本品はセンキュウ *Cnidium officinale* Makino (Umbelliferae)の根茎を、通例、湯通ししたものです。

生薬センキュウ(川芎)は、成分としてクニジリドなどを含み、補血^{※1}や強壮^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、四物湯(しもつとう)や芎帰調血飲(きゅうきちょうけついん)など56処方に配合されています。

血行を良くするために、生薬トウキ(当帰)と組み合わせて処方されることが多い生薬です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



センナ



本品は *Cassia angustifolia* Vahl (Leguminosae) の小葉で、葉柄を除いて用います。

生薬センナは、成分として センノシド などのアントラキノン誘導体を含み、緩下*1作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方には配合されていませんが、古くから瀉下薬として単味で広く利用されています。

センナは中東やアフリカで栽培され、乾燥葉を煎じて服用する「センナ茶」は便秘を整える民間薬として知られています。即効性がある一方で、刺激が強いため連用には注意が必要とされる生薬です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



ソウジュツ（蒼朮）



本品はホソバオケラ *Atractylodes lancea* De Candolle、シナオケラ *Atractylodes chinensis* Koidzumi 又はそれらの種間雑種 (Compositae) の根茎です。生薬ソウジュツ(蒼朮)は、成分としてアトラクチロジンなどを含み、健胃^{※1}、整腸^{※1}、利尿^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、二朮湯(にじゅつとう)、茵陳五苓散(いんちんごれいさん)など73処方に配合されています。低温で長期保存していると表面に綿状のものが付着することがありますが、これは精油成分の結晶が析出しているものでカビではありません。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ソボク（蘇木）



本品は ソボク *Caesalpinia sappan* Linné (Leguminosae) の心材です。

生薬ソボク（蘇木）は、成分として ブラジリンなどを含み、解熱*1、消炎*1、鎮痛*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、通導散（つうどうさん）に配合されています。

ソボクの心材は赤色を呈し、古くから染料として利用されてきました。日本では「蘇芳（すおう）色」と呼ばれる深い紅色の染色に用いられてきました。現在も染料植物として栽培されています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



ソヨウ（紫蘇葉・蘇葉）



本品は シソ *Perilla frutescens* (L.) Britton (Lamiaceae) の葉及び枝先です。
葉の両面又は片面が紫色のものを我们用います

生薬ソヨウ（蘇葉）は、成分として ペリルアルデヒドなどの精油成分を含み、
抗菌*1、鎮咳*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方
では、香蘇散（こうそさん）など11処方に配合されています。

シソは日本でも広く栽培され、葉は香味野菜として刺身のつまや薬味などに利用
されます。独特の香りは食欲を促すとされ、古くから食用・薬用の両面で親しま
れてきた植物です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語
源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂,
北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会
社. 2017, 361p



ダイウイキョウ（大茴香）



本品はトウシキミ *Illicium verum* Hook.f. (Illiciaceae) の果実です。

生薬ダイウイキョウ（大茴香）は、成分として アネトールなどを含み、芳香性健胃*1 や鎮痛作用*1があるといわれています。一般用漢方製剤294処方には、使われません。

香辛料として「ハッカク（八角）」や「スターアニス」として知られる食品で中華料理に良く使われます。

※1難波恒雄．原色和漢薬図鑑（上）．大阪，株式会社保育社．1980，517p.



ダイオウ（大黃）



本品は *Rheum palmatum* Linné、*Rheum tanguticum* Maximowicz、*Rheum officinale* Baillon、*Rheum coreanum* Nakai 又はそれらの種間雑種 (Polygonaceae) の、通例、根茎です。

生薬ダイオウ(大黃)は、成分としてセンノシドなどを含み、緩下^{※1}、駆瘀血^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、大黃甘草湯(だいおうかんそうとう)、桃核承気湯(とうかくじょうきとう)など35処方に配合されています。

ダイオウは錦紋があるものが上質とされています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



■ タイソウ（大棗）



本品はナツメ *Ziziphus jujuba* Miller var. *inermis* Rehder (Rhamnaceae)の果実です。

生薬タイソウ(大棗)は、成分としてジジフスサポニンなどを含み、消化吸収機能を整えエネルギー産生を補う補気薬^{※1}とされています。一般用漢方製剤294処方では、葛根湯(かっこんとう)や六君子湯(りっくんしとう)など90処方に配合されています。

棗(なつめ)は抹茶を入れる茶器の一つですが、ナツメの実に形が似ていることから名前が付けられています。

※1 芝野真喜雄, ミニマムファクター 漢方生薬学, 東京, 京都廣川書店, 2019, 328p.



■ タクシャ（沢瀉）



本品はサジオモダカ *Alisma orientale* Juzepczuk (Alismataceae) の塊茎で、通例、周皮を除いたものです。

生薬タクシャ（沢瀉）は、成分としてアリソールなどを含み、利尿^{※1}、止渴^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、八味地黄丸（はちみじおうがん）、茵陳五苓散（いんちんごれいさん）など28処方に配合されています。サジオモダカは夏に小さい淡いピンクの花を咲かせます。花はとても可愛いのですが、午前中には開花せず午後になって初めて開花します。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



■ チャヨウ（茶葉）



本品はチャノキ *Camellia sinensis* Kuntze (Theaceae) の葉です。

生薬チャヨウ（茶葉）は、成分としてカフェインやテオフィリンやカテキン類を含み、収斂*1、抗菌*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方には、川芎茶調散（せんきゅうちゃちょうさん）など2処方に配合されています。

お茶は古く中国で薬として用いられ、日本にも平安時代に渡来しています。現在は煎茶・紅茶・烏龍茶などの飲料として広く親しまれていますが、その基原植物はいずれも本生薬と同じチャノキです。

※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集．中国本草図録 巻1．大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修．東京，中央公論社．1992，278p.



| チョウジ（丁香・丁子）



本品は チョウジ *Syzygium aromaticum* Merrill et Perry (Myrtaceae) のつぼみです。

生薬チョウジ（丁子）は、成分として オイゲノールなどの芳香性成分を含み、局所麻酔*1、鎮痛*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、柿蒂湯（していとう）など3処方に配合されています。

チョウジは独特の強い香りとしびれるような辛味が特徴で、古くから香辛料として世界中で利用されてきました。日本でも「クローブ」として菓子や飲料に使われ、また口中をすっきりさせる香料としても親しまれています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



チンピ（陳皮）



本品はウンシュウミカン *Citrus unshiu* Marcowicz 又は *Citrus reticulata* Blanco (Rutaceae) の成熟した果皮です。

生薬チンピ（陳皮）は、成分としてヘスペリジンなどを含み、芳香性健胃^{※1}、苦味健胃^{※1}、鎮咳^{※1}作用などがあるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、六君子湯（りっくんしとう）、補中益気湯（ほちゅうえっきとう）など48処方に配合されています。

一般的にウンシュウミカンの皮を乾燥し1年以上ねかせたものを生薬チンピ（陳皮）として使います。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



トウキ（当帰）



本品はトウキ *Angelica acutiloba* Kitagawa 又はホツカイトウキ *Angelica acutiloba* Kitagawa var. *sugiyamae* Hikino (Umbelliferae) の根を、通例、湯通ししたものです。

生薬トウキ(当帰)は、成分としてリグスチリドなどを含み、強壮^{※1}、鎮静^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、四物湯(しもつとう)や清暑益気湯(せいしょえつきとう)など78処方に配合されています。

奈良県などで生産される大和当帰は、寒い時期に「はさかけ」した後「湯もみ」をして調製され、甘味が強いのが特徴です。日本と中国では基原植物が異なり、中国では *Angelica sinensis* が用いられています。日本では *Angelica sinensis* は唐当帰と呼ばれており、辛味が強いのが特徴です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



トウニン（桃仁）



本品は モモ *Prunus persica* (L.) Batsch又は*Prunus persica* Batsch var. *dauriana* Maximowicz (Rosaceae) の種子です。

生薬トウニン（桃仁）は、成分として アミグダリンなどを含み、消炎*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、桃核承気湯（とうかくじょうきとう）や桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）など16処方に配合されています。

モモは果実が食用として広く親しまれていますが、モモの内果皮（木質化し堅いので核と呼ばれる）の内部の仁（じん）が生薬として用いられ、主に血の巡りを整える目的で古くから利用されてきました。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



ドベッコウ（土別甲）



基原動物: スッポン *Amyda japonica* Temmink et Schlegel 又は シナスッポン *A. sinensis* Wiegmann (スッポン科 Trionychidae)

使用部位: 背甲

スッポン又はシナスッポンの背の部分の甲羅を乾燥させたもので、主な成分は動物性膠(にかわ)です。

解熱^{※1}、強壮^{※1}作用があるといわれ、一般用漢方製剤294処方では、解労散(かいろうさん)や延年半夏湯(えんねんはんげとう)に配合されています。

工芸細工に使われるベッコウはウミガメ科のタイマイなどの甲羅で薬用には使いません。

※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(下). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.



ニンジン（人参）



本品はオタネニンジン *Panax ginseng* C. A. Meyer (*Panax schinseng* Nees) (Araliac eae)の細根を除いた根又はこれを軽く湯通ししたものです。

生薬ニンジン(人参)は、成分としてジンセノシドなどを含み、補精^{※1}、強壮^{※1}、鎮静^{※1}、抗糖尿病^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方では、人参湯(にんじんとぅ)、補中益気湯(ほちゅうえっきとぅ)など73処方に配合されています。

野菜のニンジン(キャロット)はセリ科植物ですが、生薬に使うオタネニンジンとはウコギ科の植物です。基原植物のオタネニンジンには、チョウセンニンジン、ヤクヨウニンジン、コウライニンジンといくつかの別名があります。蒸して乾かしたものは生薬コウジン(紅参)としても使われます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



■ バクモンドウ（麦門冬）



本品は ジャノヒゲ *Ophiopogon japonicus* Ker-Gawler (Liliaceae) の根の膨大部です。

生薬バクモンドウ（麦門冬）は、成分として オフィオポゴニンなどを含み、鎮咳*1、止渴*1、去痰*1などの作用があるといわれています。

一般用漢方製剤294処方では、麦門冬湯（ばくもんどうとう）など23処方に配合されています。

基原植物のジャノヒゲは、細い葉を伸ばし地被植物として庭園でも利用されます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



ハンゲ（半夏）



本品はカラスビシャク *Pinellia ternata* Breitenbach (Araceae)のコルク層を除いた塊茎です。

生薬ハンゲ(半夏)は、成分としてホモゲンチジン酸などを含み、鎮咳^{※1}、去痰^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、小青竜湯(しょうせいりゅうとう)や六君子湯(りっくんしとう)など63処方に配合されています。えぐみや刺激が強いので緩和のために生薬ショウキョウ(生姜)と一緒に使われる事が多い生薬です。ハンゲ単味の煎じ液を飲むと、喉がひりひりしいガイガした不快感がしばらく残ります。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ビワヨウ（枇杷葉）



本品は ビワ *Eriobotrya japonica* Lindlley (Rosaceae) の葉です。

生薬ビワヨウ（枇杷葉）は、成分として ネロリドールなどを含み、消炎*1、鎮痛*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、辛夷清肺湯（しんいせいはいとう）、甘露飲（かんろいん）に配合されています。

ビワは庭木としてもよく植えられ、初夏には黄色い果実をつけます。葉の裏面には細かな毛が密生しており、これを取り除いて煎じ薬に利用します。日本では古くから民間療法でも親しまれ、葉を布袋に入れて入浴剤として用いられることもあります。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



■ ブシ（加エブシ）



本品はハナトリカブト *Aconitum carmichaeli* Debeaux 又は オクトリカブト *Aconitum japonicum* Thunberg (Ranunculaceae) の塊根を決められた加工法により製したものです。

生薬ブシ(加エブシ)は、成分としてアコニチンなどを含み、鎮痛^{※1}、強心^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、麻黄附子細辛湯(まおうぶしさいしんとう)や八味地黄丸(はちみじおうがん)など25処方に配合されています。基原植物のハナトリカブト又はオクトリカブトは、非常に毒性が強いため加工し減毒したものが生薬として用いられます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ボタンピ（牡丹皮）



本品はボタン *Paeonia suffruticosa* Andrews (*Paeonia moutan* Sims) (Paeoniaceae) の根皮です。

生薬ボタンピ(牡丹皮)は、成分としてペオノールなどを含み、抗菌^{※1}、駆瘀血^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、加味逍遙散(かみしょうようさん)や桂枝茯苓丸(けいしぶくりょうがん)など89処方に配合されています。ボタンはシャクヤクと似ていますが、シャクヤクは草本植物でボタンは木本植物です。ボタンの根には木質化した芯がありこれを除いたものが生薬ボタンピになります。「座れば牡丹」は女性の美しさを形容する言葉ですが、血が滞り生理痛などで動けなくなる症状に用いられる生薬です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ボレイ（牡蛎）



基原動物:カキ *Ostrea gigas* Thunb. (イタボガキ科 Ostreidae)

使用部位:貝がら

カキの貝がらを生薬として用います。主な成分は炭酸カルシウムで、鎮静^{※1}、利尿^{※1}、制酸^{※1}作用があるといわれ、一般用漢方製剤294処方の安中散(あんちゅうさん)や柴胡加竜骨牡蛎湯(さいこかりゅうこつぼれいとう)など7処方に配合されています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



マオウ（麻黄）



本品は *Ephedra sinica* Stapf、*Ephedra intermedia* Schrenk et C. A. Meyer 又は *Ephedra equisetina* Bunge (Ephedraceae) の地上茎です。

生薬マオウ(麻黄)は、成分としてエフェドリンなどを含み、鎮咳^{※1}、去痰^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、葛根湯(かっこんとう)、小青竜湯(しょうせいりゅうとう)など32処方に配合されています。成分のエフェドリンは交感神経興奮作用を持ちスポーツ選手のドーピング禁止物質に指定されています。マオウ(麻黄)が配合される漢方製剤のスポーツ選手への投与は注意が必要です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



マシニン（火麻仁・麻子仁）



本品は アサ *Cannabis sativa* Linné (Moraceae)の果実です。

生薬マシニン（麻子仁）は、成分として パルミチン酸、リノール酸 などの脂肪油を豊富に含み、緩下*1などの作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、麻子仁丸（ましにんがん）など3処方に配合されています。

種子には油分が多く、乾燥しがちな腸を潤す目的で古くから利用されてきました。基原植物であるアサは繊維作物としても有名で、茎の繊維は麻縄や衣料に利用されます。また、種子は食用油の原料としても用いられています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単（ショウヤクタン）～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p



ユウタン（熊胆）



基原動物: ヒグマ *Ursus arctos* Linn. (クマ科 Ursidae) 又はその他近縁動物

使用部位: 胆汁

ヒグマの胆汁を乾燥したものが生薬として用いられ、利胆^{※1}、鎮痙^{※1}、解熱^{※1}作用があると言われています。主要な成分は、タウロウルソデオキシコール酸などの胆汁酸です。古くから民間薬として利用され、奇応丸(きおうがん)、救命丸(きゅうめいがん)などに配合されています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ヨクイニン（薏苡仁）



本品はハトムギ *Coix lacryma-jobi* Linné var. *mayuen* Stapf (Gramineae)の種皮を除いた種子です。

生薬ヨクイニン(薏苡仁)は、成分としてコイキセノリドなどを含み、滋養強壮^{※1}、肌荒れ^{※1}を改善する作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、薏苡仁湯(よくいにんとう)など5処方に配合されています。

ハトムギを殻ごと炒って香りを出したものはハトムギ茶としても利用されます。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



リュウコツ（竜骨）



基原鉱物：大型哺乳動物の化石化した骨

シカ、ゾウ、ウシなどの哺乳動物の化石化した骨で、主として炭酸カルシウムから成ります。中枢神経抑制^{※1}作用があるといわれ、不眠^{※1}にボレイ(牡蛎)と共に用いられます。一般用漢方製剤294処方では、桂枝加竜骨牡蛎湯(けいしかりゅうこつぼれいとう)と柴胡加竜骨牡蛎湯(さいこかりゅうこつぼれいとう)に配合されています。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



レンギョウ（連翹）



本品はレンギョウ *Forsythia suspensa* Vahl (Oleaceae)の果実です。
生薬レンギョウ(連翹)は、成分としてフォルシチアシドなどを含み、抗菌^{※1}、
消炎^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方では、防風通聖
散(ぼうふうつうしょうさん)、治打撲一方(ぢだぼくいっぽう)など14処方に
配合されています。レンギョウは、早春に黄色い花を咲かせるので、庭木や街
路樹によく使われる植物です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語
源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千
穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017,
361p.



ロートコン



本品はハシリドコロ *Scopolia japonica* Maximowicz、*Scopolia carniolica* Jacquenot 又は *Scopolia parviflora* Nakai (Solanaceae) の根茎及び根です。

生薬ロートコンは、成分としてアトロピンなどを含み、鎮痛^{※1}、鎮痙^{※1}作用があるといわれています。一般用漢方製剤294処方には配合されていません。基原植物のハシリドコロは日本にも自生しますが、全草にアトロピンなどのアルカロイドを含む有毒植物です。ハシリドコロは新芽の形がフキノトウに似ているため誤食に注意が必要な植物です。

※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ロクジョウ（鹿茸）



基原動物：マンシュウアカジカ *Cervus elaphus* Linn. var. *xanthopygus* Milne-Edwards、マンシュウジカ *C. nippon* Temminck var. *mantchuricus* Swinhoe
(シカ科 Cervidae)

使用部位：幼角

雄の幼角を生薬に用います。角の成長は早くわずか70日で20-30cmに達します。角の先端部が高級品で角質化が進んだ基部側は劣品として扱われます。成分はコラーゲンなどのタンパク質です。滋養強壮^{※1}作用を期待して鹿茸丸（ろくじょうがん）などに配合されています。

※1 難波恒雄．原色和漢薬図鑑(下)．大阪，株式会社保育社．1980，521p.